

「広報シリーズ④」

○多目的医療用ヘリの導入目的・運用開始について

福島県では、双葉地域の救急医療体制を強化するため、「福島県ふたば医療センター附属病院」を平成30年4月23日に開院しました。ふたば医療センター附属病院は24時間体制で救急医療を提供します。救急車で搬送される患者さんや、ケガや急な病気で近くの診療所では対応困難な患者さんの診療を行っています。

また、平成30年10月から多目的医療用ヘリの運航を開始しました。これは県が新たに導入する医療用のヘリコプターであり、ふたば医療センター附属病院が運航基地となり、双葉地域の救急現場や浜通りの医療機関を中心に運航するものです。このようなヘリの公立病院での導入は、全国でも例のない取組です。双葉地域の皆さんの安心を医療の面で支えることを目指しています。

○運航開始日について

平成30年10月29日から運航を開始しました。

○基地病院について

ヘリの出動基地となる福島県ふたば医療センター附属病院を基地病院とします。

○多目的医療用ヘリの運航内容は？

- ① 双葉地域で発生した救急患者への対応  
⇒ ドクターヘリは、生命の危険が切迫している重症患者に対応しています。  
多目的医療用ヘリは、ドクターヘリの対象とならない比較的軽症の患者搬送を担当します。
- ② 浜通りの医療機関と高度専門的な治療が行える医療機関との間の患者搬送
- ③ 専門の医師、医療スタッフや医薬品、医療資機材の緊急搬送

○多目的医療用ヘリ導入の効果は？

- ① 双葉地域での救急医療の質の向上
- ② 医療機関への搬送時間が短縮  
⇒ これにより、患者の重症化防止や移動中の負担軽減を図ることができます。

例) 搬送に要する時間

	福島市・郡山市	いわき市・南相馬市
救急車	100～120分	60～80分
多目的医療用ヘリ	18～20分	11～12分

○格納庫について

福島県立医科大学附属病院のドクターヘリポート内に、多目的医療用ヘリの格納庫を新たに整備しました。

○多目的医療用ヘリ運航開始式

平成30年9月21日（金）福島県ふたば医療センター附属病院のヘリポートにおいて、福島県知事、厚生労働副大臣、復興副大臣をはじめ、関係者の皆様に御列席いただき、運航開始式が執り行われました。

本学からは、来賓として竹之下誠一理事長、谷川攻一ふたば医療センター長が出席し、テープカットを行いました。



内堀雅雄知事が「多目的医療用ヘリは地域の救急医療の強化につながるものです。地域の皆さんが安心して生活できるよう、引き続き地域医療の充実を始め生活環境の整備など本県の復興・創生に全力で取り組んでまいります」と挨拶。同センター附属病院の田勢長一郎院長は「このヘリにより地域の皆様の安心を医療の面からしっかりと支え、地域の救急医療の質を向上させるよう精一杯取り組んでまいります」と挨拶しました。

○多目的医療用ヘリの格納庫の概要

構造は、鉄骨構造平屋建、床面積236.6㎡、諸室は、格納庫と待機室となっています。その他、給油設備の新設、航空灯火設備、ヘリポートマーキング塗布等の改修をしました。



新格納庫

○多目的医療用ヘリは、福島県ドクヘリで使用するヘリと同等です。



ふたば医療センター附属病院にて待機

# ○「肺炎予防」について

肺炎は日本人の死因の第3位で、肺炎で亡くなる方の約95%は65歳以上の方です。原因のほとんどが、市中肺炎ではなく、誤嚥性肺炎が多いことが指摘されています。

高齢になると発熱、咳といった肺炎の典型的な症状ではなく、「元気がない、食欲がない」という様子しか表れないことがあります。「そのため家族が肺炎と気づかないうちに、【重症化する危険性】があります。」

1位	悪性新生物(がん) 【372,986人】
2位	心疾患(心不全など) 【198,006人】
3位	肺炎 【119,300人】
4位	脳血管疾患(脳梗塞など) 【109,320人】

## ①肺炎予防のためにできること

- ・肺炎の原因となる細菌やウイルスが、体に入り込まないようにする。
- ・毎日の感染予防(うがい・手洗い・マスクの着用・口のなかを清潔にする)・誤嚥を防ぐ)
- ・予防接種を受ける(成人用肺炎球菌ワクチン。インフルエンザワクチン)
- ・体の免疫を高める(規則正しい生活をする)・持病の治療につとめる)・喫煙者は禁煙する)

## ③肺炎になると、どうなるの

- ・肺炎は風邪と違って命に関わります。
- ・肺炎の主な症状は、発熱、咳、たん、息苦しさ、胸の痛みなどで、風邪とよく似ており、症状から見分けするのは困難です。
- ・風邪は鼻や喉といった上気道や気管支の炎症であるのに対して、肺炎は肺の中の肺胞という部位に炎症が起きますが、肺胞に炎症が起きると呼吸がうまくできなくなり、酸素不足となり、呼吸困難を引き起こします。

## ②すでに、肺炎予防をしている方へ

- ・高齢になるほど、肺炎のリスクは高くなります。
- ・肺炎による死亡率は、65歳を過ぎると年齢とともに上昇していきます。
- ・65〜69歳に比べて、70〜74歳では約2倍、75〜79歳ではさらにその約2倍、というように、死亡率はどんどん上昇していきます。つまり肺炎予防は高齢とともにますます重要になります。

## ④高齢者の肺炎の特徴

- ・高齢者の肺炎では、症状がわかりづらいという特徴があります。
- ・発熱や咳、たんなどの症状があまりみられない。
- ・元気がない、食欲がない、意識がはっきりしない
- ・症状が急速に進み、突然、呼吸困難に陥ることもあります。
- ・高齢者の肺炎は危険な病気なので入院すると、足腰が衰え・糖尿病の方の症状悪化・認知症になる可能性・心臓の病気や脳卒中にかかりやすくなるなどが報告されています。

## ⑤気をつけて、肺炎球菌による肺炎

- ・肺炎球菌とその感染症について知ろう。
- ・本人がかかるとその肺炎の中でも最も原因になりやすい「肺炎球菌」。ここでは、肺炎球菌が引き起す病気や、その感染経路などについてご説明します。
- ・肺炎球菌という細菌が感染することと起こる感染症のことです。
- ・成人では、「肺」に感染して「肺炎」を起すことが多いのですが、ほかに、菌血症・敗血症・髄膜炎などを起すこともあります。

## ⑥高齢者の肺炎球菌感染症の定期接種について

- ・定期接種とは、「予防接種法」という法律に基づき自治体(市町村等)が実施する予防接種です。
- ・今年度(平成30年度)の高齢者の肺炎球菌感染症の定期接種の対象期間は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までとなります。
- ・期間内に接種しなかった場合は、定期接種の対象とはなりません。
- ※定期接種の開始時期は、各自治体によって異なります。

## 本人がかからないための注意

- ・休養(睡眠)をとる
- ・栄養をとる
- ・規則正しい生活
- ・禁煙
- ・うがい、手洗い、マスク
- ・かかってしまったら、家族に広めないこと
- ・休みをとる
- ・食器、タオルなどは他の人と別にする
- ・なるべく他の人と同室しない

## 市中肺炎

在宅で普通の社会生活をおくっている人に発症する肺炎のことをいいます。

## 誤嚥(ごえん)

高齢になるにつれ、咳をすることや、飲み込む運動がうまくいかなくなり、誤って唾液や食物が気管に入ってしまうことがあります。口の中の細菌なども一緒に気管に入ってしまう、それが誤嚥性肺炎(ごえんせい)といえます。

## 平成30年度接種対象者

今年度以下年齢になる方が定期接種となります。

65歳	昭和28年4月2日～昭和29年4月1日生まれの方
70歳	昭和23年4月2日～昭和24年4月1日生まれの方
75歳	昭和18年4月2日～昭和19年4月1日生まれの方
80歳	昭和13年4月2日～昭和14年4月1日生まれの方
85歳	昭和8年4月2日～昭和9年4月1日生まれの方
90歳	昭和3年4月2日～昭和4年4月1日生まれの方
95歳	大正12年4月2日～大正13年4月1日生まれの方
100歳	大正7年4月2日～大正8年4月1日生まれの方

※高齢者の肺炎球菌感染症の定期接種制度に関するお問い合わせは、各町村役場にお問い合わせいたします。

【広報紙に関する問い合わせ先】

公立大学法人  
福島県立医科大学  
復興推進課

電話番号

(024)

547-11686

佐藤・山川